静岡新聞（夕刊）2011年11月29日掲載

※複製転載禁止

浜松―ブラジル つなぐ学生記者

県立大・山崎さん

現地発行の日本語新聞 無報酬で精力取材

ブラジルの日刊紙「サンパウロ新聞」の県内初の支局がこのほど、浜松市に開設した。支局員を務めるのは昨年9月から1年間ブラジルに滞在し、同新聞社でインターンシップを行った県立大国際関係学部3年の山崎功祐さん(22)＝同市南区＝。「ブラジル人在住者の多い浜松から情報を届けたい」―と帰国後、無報酬での〝新聞記者〟を買って出た。

インターンシップのきっかけはブラジルやペルーなど、日系人の友人。彼らから国籍取得などの相談を受けても、現地を訪れたことがなく、「実態が分からなければ、本当の力にはなれない」とジレンマを感じていた。山崎さんは休学し、ブラジルのサンパウロ新聞社で職場研修を行うことを決めた。

サンパウロ新聞はブラジルを中心に約3万部発刊されている日本語新聞。現地では静岡県出身の日系人や、家族や恋人が県内で働いているというブラジル人に出会った。浜松から来ていると伝えると、温かく迎えてくれた。

新聞記者としての仕事にも興味が募った。同新聞社の日本国内の拠点は東京と福岡のみ。ブラジル人が集住する浜松市内ではこれまでブラジル人向けのポルトガル語新聞や放送局などがあったが、リーマン・ショック後に支局を引き上げている。「浜松の状況をもっと知らせたい」―。自宅を支局として、無報酬で記事を発信することを自ら提案し、承諾を得た。

開局から約2カ月。現在は学業と両立させながら、精力的に取材に出掛ける。将来、何をしたいかはまだ分からない。でも今は「多くの人の声を聞き、足で稼いだ情報を広く届けたい」と、地球の裏側を感じながら取材相手と真っすぐに向き合う。

精力的に取材をする山崎さん（左）。ポルトガル語は現在も勉強している＝浜松市中区

静岡新聞社編集局調査部許諾済み